



病気のネコ

昔むかし学校に、やせこけた猫が迷い込んできた。男の子たちが、顔に落書きし、チューンガムを食べさせま笑っている。女の子たちが職員室に救いを求め、若い先生が出動。ガム猫は、とまも警戒している。何とか捕まえま口の中のガムを取り除くと、すごい勢いで逃げ、その後、二度と姿を見せなかった。救った先生は、腕にひっかき傷。保健室の先生から、病院に行くように言われていた。



病気の猫は、居心地良い場所で、飲まず食わず、回復するまでひたすら横になっている。目ヤニがいっぱい、毛並みも色あせ、お腹をペコリと凹ませま。

引き合いにするのは気が引けるけれど、不登校の子たちの中には、こころがこの「病気のネコ状態」の子も居ます。見かけは普段と変わらないけれど、よく見ると普段と違っている。普段の様子を知っている人だけがそれに気付きます。必ずしも、言葉を交わしている人は限りません。おはよう！と声を掛けていただけでも、おや？と気付く人もいます。かえって、遠くで見守っている人が、受ける印象の違いに気付くこともあるようです。

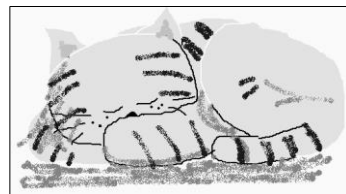


不登校になって、あらためま子どもに心配の声を掛けると、ガム猫のように、これを拒む子どももいます。こころの具合が悪くま登校を渋っていた時に「学校は行くべき所」と追い立たた事のある人に優しくされまも、こころが動かない事もあります。自分の殻に閉じこもり、さらにはネットゲームや動画鑑賞？に逃げ込み、昼夜逆転することで、家族とも顔を合わせなくなる事もあります。



人は身体が弱ると必ず、こころも弱ってましまうものです。

こころが弱ると、周りの目を批判的に感じましまいます。一人でいたら考える必要もなくなり、それ以上こころが傷つ



くことはありません。身体が不潔になっま人前に出られなくまも、どうでも良いと思いません。言葉を交わすと何かを感じ、こころの傷が痛むので、身体からこころを離して行きがちです。

それは本能ではないでしょうか。そうであれば、自然治癒を待って見守るのも一方法かもしれません。